

令和元年食中毒発生状況の概要について

令和 2 年 6 月 16 日

厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

1. 発生状況（事件数, 患者数, 死者数）

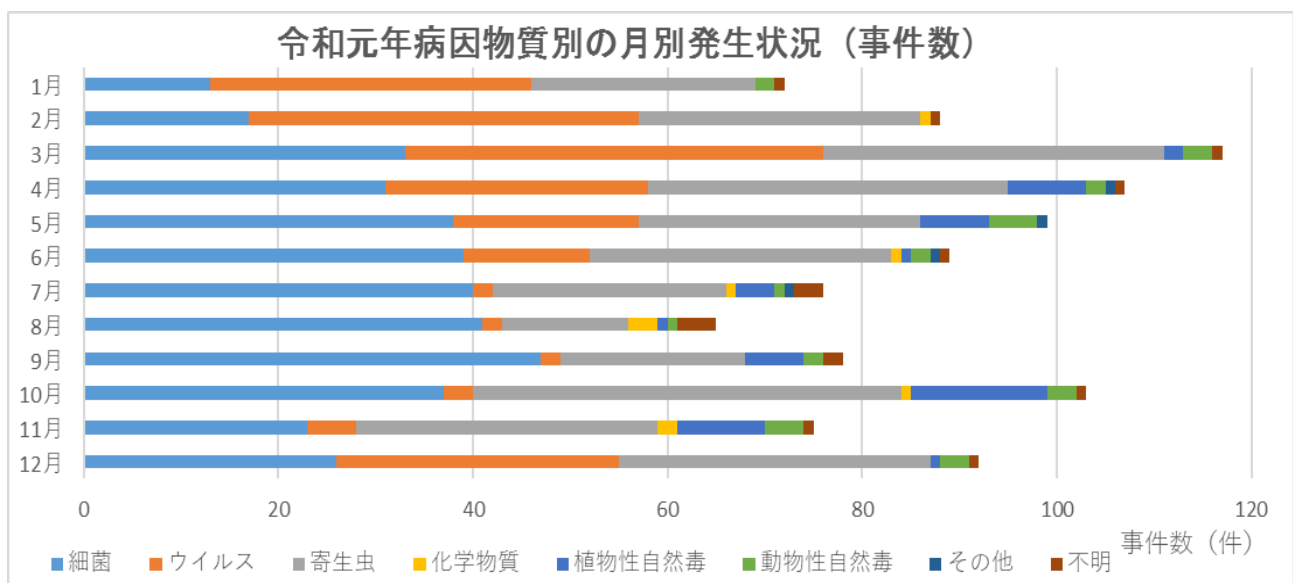
○令和元年に国内で発生した食中毒事件数は 1,061 件（対前年-269 件）、患者数 13,018 人（対前年-4,264 人）、死者数 4 人（前年比+1 人）であった。

○そのうち、患者数 2 人以上事例は、689 件（対前年-133 件）、患者数 12,646 人（対前年-4,128 人）であり、全体の事件数の 64.9%、全体の患者数の 97.1%を占めていた。

○患者 500 人以上の食中毒は発生していない（前年は 2 件）。

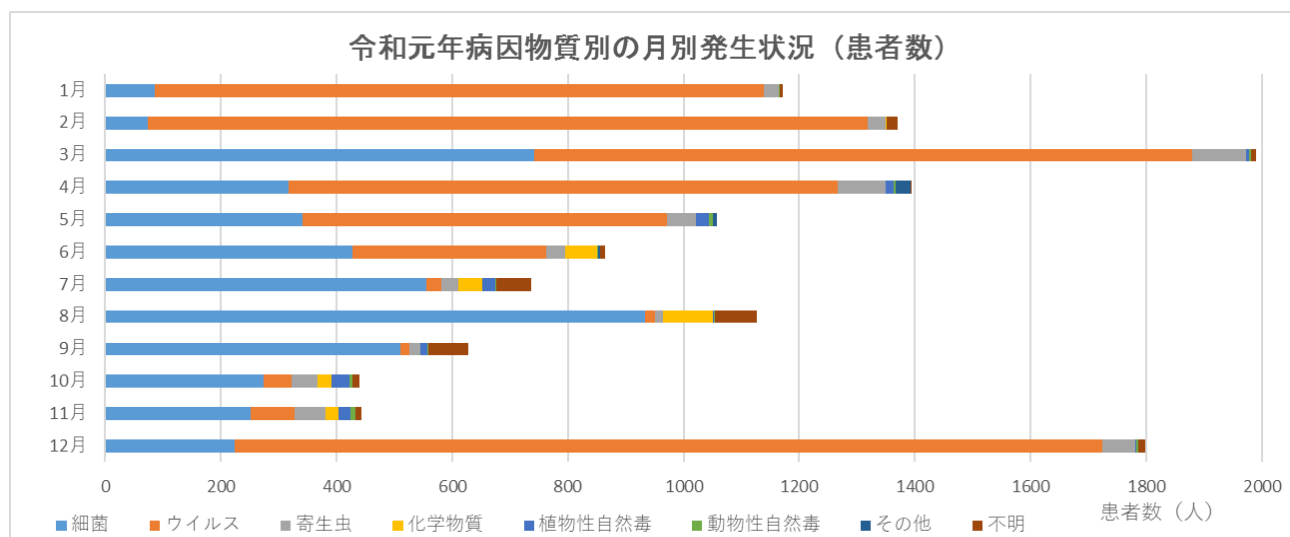
2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、3月の 117 件（11.0%）で、次いで4月の 107 件（10.1%）、10月の 103 件（9.7%）の順であった。患者数では、3月の 1,990 人（15.3%）、12月の 1,798（13.8%）、4月の 1,394 人（10.7%）の順で多かった。



	R1											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	13	17	33	31	38	39	40	41	47	37	23	26
ウイルス	33	40	43	27	19	13	2	2	2	3	5	29
寄生虫	23	29	35	37	29	31	24	13	19	44	31	32
化学物質	0	1	0	0	0	1	1	3	0	1	2	0
植物性自然毒	0	0	2	8	7	1	4	1	6	14	9	1
動物性自然毒	2	0	3	2	5	2	1	1	2	3	4	3
その他	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
不明	1	1	1	1	0	1	3	4	2	1	1	1

図 1：令和元年月別発生状況（事件数）



	R1											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	85	74	742	318	342	428	556	934	511	274	251	224
ウイルス	1054	1245	1138	948	629	335	25	17	15	49	76	1500
寄生虫	26	31	93	83	51	32	30	13	19	45	54	57
化学物質	0	1	0	0	0	55	41	87	0	23	22	0
植物性自然毒	0	0	5	15	22	1	23	1	12	31	22	2
動物性自然毒	2	0	4	2	7	2	1	2	2	5	8	3
その他	0	0	0	27	7	2	1	0	0	0	0	0
不明	4	19	8	1	0	9	59	72	69	12	11	12

図 2：令和元年月別発生状況（患者数）

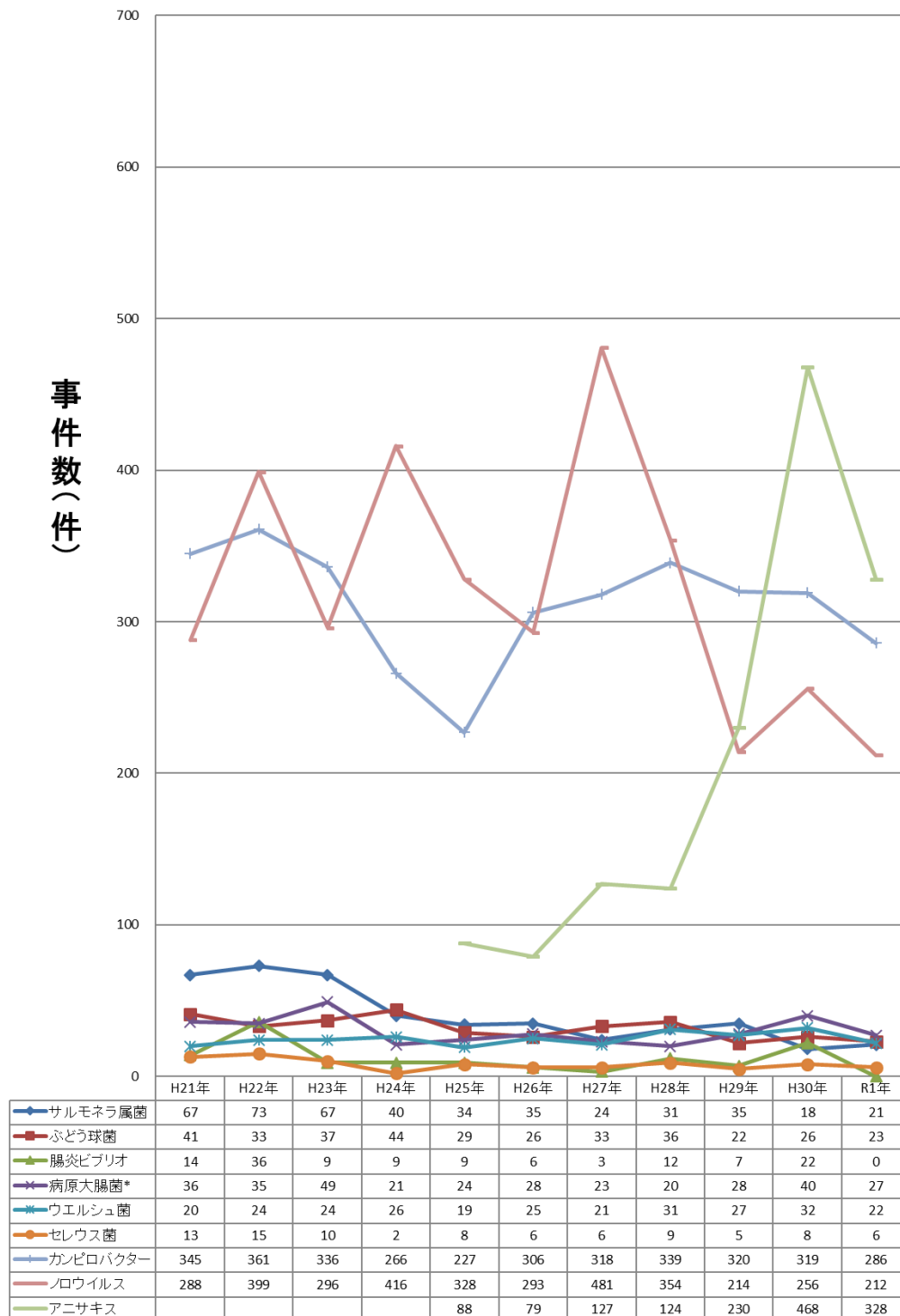
3. 病因物質別発生状況

- 病因物質別の事件数を見ると、アニサキス（328 件、30.9%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（286 件、27.0%）、ノロウイルス（212 件、20.0%）の順で多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（6,889 人、52.9%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（1,937 人、14.9%）、ウエルシュ菌（1,166 人、9.0%）の順で多かった（図 3, 4）。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（276 件、40.1%）、ノロウイルス（212 件、30.8%）、植物性自然毒（38 件、5.5%）の順で多かった。また、患者数 2 人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（6,889 人、54.5%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（1,927 人、15.2%）、ウエルシュ菌（1,166 人、9.2%）の順で多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数 20 件（1.9%）、患者数 165 人（1.3%）、死者 0 人であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、ノロウイルス（平成 9 年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加）とカンピロバクターにおいて事件数及び患者数共に高い値で推移している。また、ノロウイルスを原因とする食中毒患者から死者が 1 名確認された。
- 平成 25 年 1 月より寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他寄生虫）についても食中毒事件票に病因物質種別として追加した。それぞれの病因物質による事件数と患者数は、クドアが 17 件 188 人、アニサキスが 328 件 336 人、サルコ

システィスの発生はなかった。

全体の食中毒事件数の年次推移

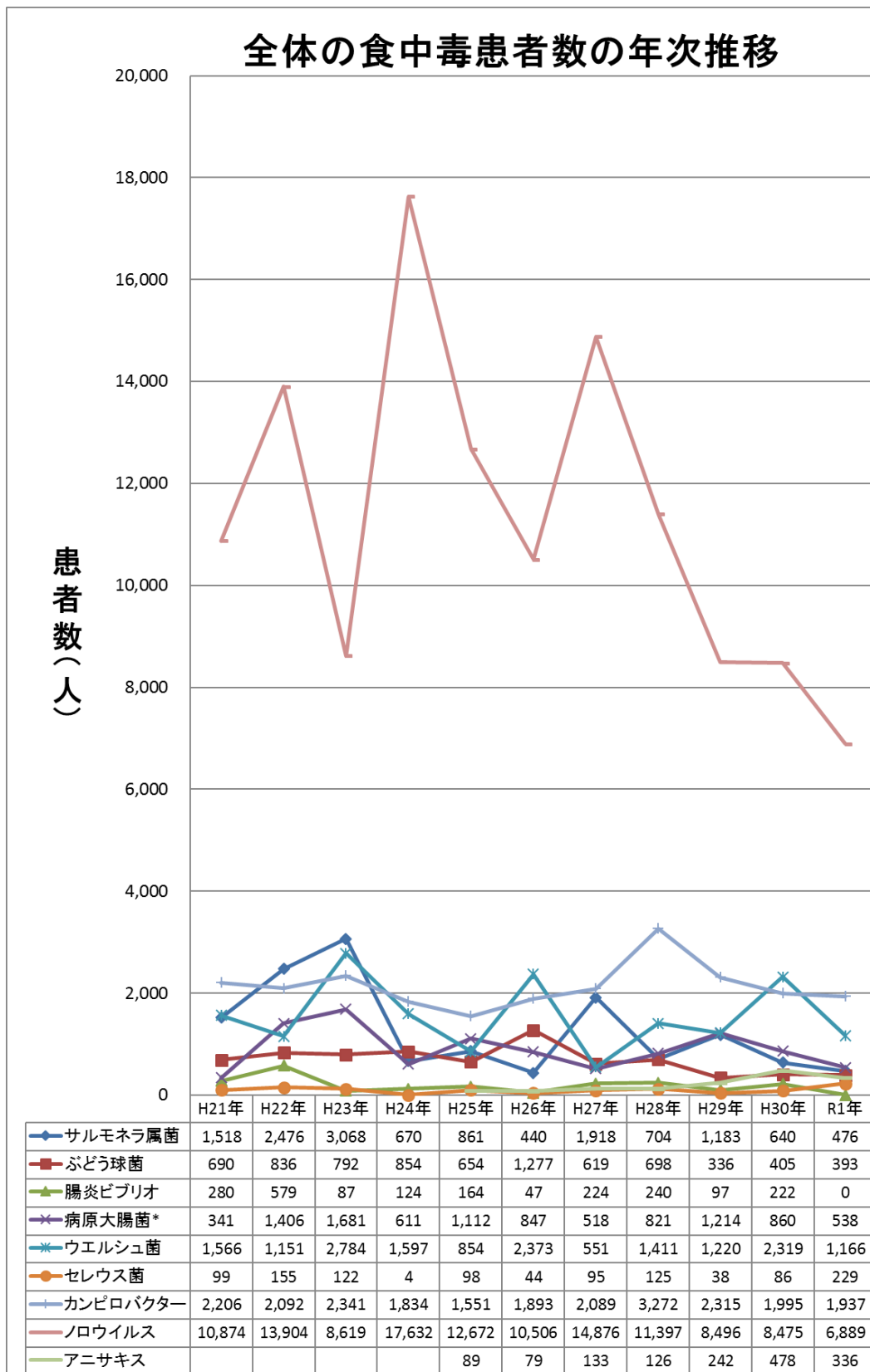
事件数(件)



<※腸管出血性大腸菌を含む>

<平成 25 年よりアニサキスは食中毒統計において個別に集計されている。>

図 3：平成 21～令和元年食中毒事件数推移



<※腸管出血性大腸菌を含む>

<平成 25 年よりアニサキスは食中毒統計において個別に集計されている。>

図 4：平成 21～令和元年食中毒患者数推移

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品の判明したものは、事件数 909 件(85.7%)、患者数 12,495 人(96.0%)であった。
- 原因食品別の事件数を見ると、魚介類(273 件、25.7%)、肉類及びその加工品(58 件、5.5%)、複合調理食品(53 件、5.0%)の順で多かった(「その他」を除く。以下この項において同じ。)。また、原因食品別の患者数は、複合調理食品(1,168 人、9.0%)、次いで魚介類(829 人、6.4%)、肉類及びその加工品(826 人、6.3%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因食品別の事件数を見ると、肉類及びその加工品(58 件、8.4%)、魚介類(55 件、8.0%)、複合調理食品(50 件、7.3%)の順で多かった。また、患者数 2 人以上事例における原因食品別の患者数は、複合調理食品(1,165 人、9.2%)、肉類及びその加工品(826 人、6.5%)、魚介類(611 人、4.8%)の順で多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数 899 件(84.7%)、患者数 12,626 人(97.0%)であった。
- 原因施設別の事件数を見ると、飲食店(580 件、54.7%)に次いで家庭(151 件、14.2%)、販売店(50 件、4.7%)の順で多かった。また、原因施設別の患者数は、飲食店(7,288 人、56.0%)、旅館(1,719 人、13.2%)、製造所(871 人、6.7%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると、飲食店(490 件、71.1%)、家庭(48 件、7.0%)、事業場(33 件、4.8%)の順で多かった。また患者数 2 人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると、飲食店(7,198 人、56.9%)、旅館(1,718 人、13.6%)、製造所(870 人、6.9%)の順で多かった。

5. その他

令和元年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省医薬・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html) で公開している。